

教科	数 学	科 目	数学Ⅱ	単位数	2 単位
学 科	全学科	学 年	3 学年		
学習目標	微分と積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習得を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさが分かるようにする。				
学習内容	学習項目		評価規準【評価の観点】		
	数と式の計算（復習） 因数分解（復習） 2次方程式と2次関数（復習） 4章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 1 平均変化率 2 微分係数 3 導関数 問題演習 2節 導関数の応用 1 関数の増加・減少 2 関数の極大・極小 3 関数の最大・最小 問題演習 3節 積分の考え 1 不定積分 2 定積分 3 面積 4 いろいろな図形の面積 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> ・正負の整数、小数、分数、無理数の四則計算ができる。【C】 ・公式を利用して主に2次式の因数分解ができる。【C】 ・2次方程式・連立方程式の解が求められ、更に文章問題に利用ができ解くことができる。【B・C・D】 ・2次関数の性質やグラフを理解し、最大・最小問題が解くことができる。【B・C・D】 ・平均変化率を物理的な例から導入し、グラフ上の2点を通る直線の傾きと対応していることに気付くことができる。【A・B・C】 ・平均変化率の極限を考えることで、微分係数を求めることができる。また、グラフの接線の傾きと対比して、微分係数の図形的意味を理解することができる。【A・B・D】 ・任意の点の微分係数を与える関数としての導関数の意味を理解し、簡単な導関数の計算をすることができる。【B・C】 ・与えられた曲線の方程式から接線の方程式を求めることができる。【C】 ・導関数の符号を利用して、関数の増減が分かり、グラフがかけられるようになると同時に、その有用性を認識することができる。【A・B・C】 ・増加減少の境目としての関数の極大・極小の意味と求め方を学ぶことで、グラフへの理解を深めることができる。【C・D】 ・グラフをかくことで最大・最小の問題が簡単に解けることを理解し、応用の広さと微分の重要性を理解することができる【A・B・C・D】 ・微分の逆演算としての不定積分を理解し、公式を基に様々な不定積分の計算ができる。【C】 ・定積分の公式を導入し、簡単な計算ができる。【C】 ・定積分の応用として、面積が簡単に求められることを理解し、面積計算を通して、積分の概念の有効性を知ることができる。【B・C】 		
評価の観点	【A】 関心・意欲・態度 【B】 数学的な見方や考え方 【C】 数学的な技能 【D】 知識・理解				
評価方法	定期考査及び平常の学習活動(小テスト、課題、授業態度、意欲等)による総合評価				
教科書等	高校数学Ⅱ新訂版(実教出版) 数学就職問題集(愛媛県高等学校教育研究会数学部会編集)				
備考	随時、問題演習として就職問題集を利用する。				

※評価規準は、学習の到達目標でもあります。